

学校づくりのコンセプト「ひろばのある学校」

学校や地域の集団的な活動には、ただ広いグラウンドや屋内運動場だけではなく、さらに「様々な機能を内包した交流空間」が必要と考えています。それは、子どもたちや地域が活動するよりどころであり、様々つながりの輪が広がる、「ひろば」のような、なくてはならない場所のことです。私たちは、学校づくりのテーマに掲げられた「地域の中で育つ川崎っ子、地域が育てる川崎っ子」は、この「ひろば」を媒体として育まれると考えています。私たちは、自ら街を歩き、耳を傾け、それを検証し、「ひと」「活動」「まち」をつなぐ「ひろば」から、「学び」「育ち」「未来」へとつながる「ひろばのある学校」を創造したいと考えています。



□グラウンドから望む外観イメージ（南西面）

■地域に馴染む伸びやかな形態（景観・周辺環境に配慮した学校）

川崎地区は校歌に「鈴鹿の峰を仰ぎつつ」「黒き大地をふみしめて」「峰の城あとかげうつし」「水清き川崎に」「能褒野の里に」かすみたち「桜の庭にはぐくまれ」と謳われているように、**伸びやかで豊かな恵み**にあふれた風景が今もなお残っています。近年では旧来からの農村風景に新しさも芽吹きはじめ長閑でありながら**若々しい風景**をつくりだしています。私たちは**歴史の継承**と、この**環境要素を織り込み**、新しい校舎が永きに渡り、子どもたちや地域の人々が愛着を持ち誇りに思える「川崎の姿を映す学校」をつくりたいと考えています。



□伸びやかな風景に抱かれた外観イメージ（東面）

遠景：鈴鹿の峰と歴史と呼応する校舎、新しい時を刻む時計塔が地域のシンボルとなる
（テーマ：地域の中で育つ川崎っ子、地域が育てる川崎っ子）

■社会を生き抜く「川崎っ子」を育む学校（児童がいきいき、のびのびと学び生活する学校）

生きる力、即ち、**豊かな知力、豊かな人間性、健やかな身体、たくましい心**を身につけるには、子どもたち一人ひとりの**個性や能力を伸ばす**ことが大切です。子どもたちの成長は学校だけではなく、家庭や地域、社会全体で取り組むことも大切です。地域との交流の場や異年齢交流の場等、社会の一員として**自覚を育てる空間**づくりや**本物の体験**を通して、社会性、他との共生、**豊かな情操を育む**ことのできる学校づくりをめざします。まずは、子どもたちのニーズを把握すること、**子どもたちのまなざし**で学校をつくることからスタートとします。



□教室前につくられた体験型ワークテラス「緑の広場」イメージ

中景：無限の探究心を育む豊かな環境計画が子どもたち、大人たちを惹きつける

■地域が支える学校、地域を支える学校づくり（地域活動の場となる学校）

学校建築は時代を背景として変化してきました。近年では人口減少や少子高齢化等の背景から、**学校と地域が一緒に子どもを育てる環境**づくりや**生涯学習拠点**としての**地域連携**、学校施設の複合化等、学校機能のみならず地域の施設としての役割が求められています。**学校と地域はより一層の結びつきが必要**とされ、**地域と一緒に学校をつくる**というプロセスが重要度を増してきています。私たちはこの改築をきっかけとして「きもちづくり」から「かたちづくり」「しくみづくり」から「うごきづくり」をサポートし**学校と地域の新たな関係性を創造**します。



□みんなの顔が見えるコミュニティ空間「内の広場」イメージ

近景：木質化されたあたたかな空間で子どもたちの交流が育まれる

■校内に人々を誘う「路地」を通す (敷地・校舎を有効利用した学校 他)

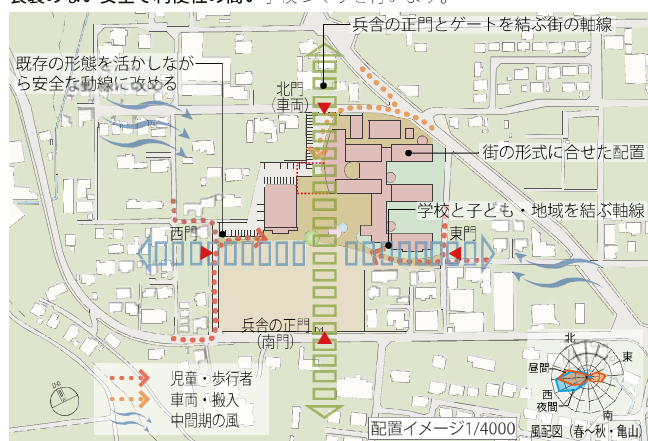
・現在の川崎小中学校は増築の繰り返しにより、入口が不明瞭で歩車動線が錯綜した状況です。問題を解決するために、**児童動線はそのままに、車両動線のみを北側に移動します。**

・敷地の東西と北側駐車場を結ぶ歩行者動線「**川崎の路地**」を設けて来訪者を学校へと導く計画とします。

・敷地の南北が分断された校地計画が多くみられる中で、**表裏のない安全で利便性の高い学校づくり**を行います。



特徴的な路地を校内に



■新旧の校地を最大限に活用した配置計画 (敷地・校舎を有効利用した学校 他)

・南側にあったプールは北側に移動して、**駐車場は既存を上手く流用**しながら北西側に配置することで用地を広く、無駄なく使うことが可能となります。

・校舎は**2階建て**として環境面から導き出される適切な隣棟間隔を保ち配置することで、**周辺の住環境にも調和した伸びやかな形態**となり、校内にも豊かな屋外スペース「**広場**」を生み出します。

・運動場の大きさは、川崎の路地が緩やかな円を描き、車両動線を北側へ、屋内運動場西側の駐車場を縮小することで**ひとまわり拡張 (約1,000㎡)**します。

・記念碑、噴水池、子どもたちと共に成長してきた**桜の大木**を始め校内の緑を極力残した計画とし**歴史を継承**します。兵舎の正門や噴水池等は劣化が著しいため修復を行います。既存の桜等もそのままに



兵舎の正門はそのままに



既存の桜等もそのままに

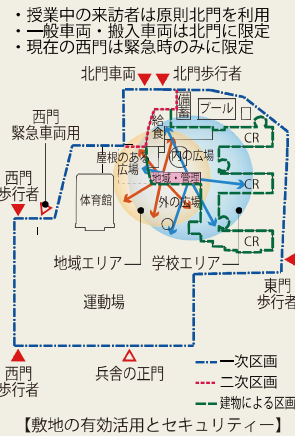
■地域・管理ゾーンを中心に展開 (敷地・校舎を有効利用した学校 他)

・学校を地域と共有することはセキュリティの考え方や建物のルール作りが必要となりますが、建物側である程度の配慮を行うことで**努力を掛けずに管理することが可能**となります。

・校地の中心で川崎の路地の結接点に**地域・管理ゾーンを配置し、地域と学校が手を取り合い face to face**で子どもたちを育て**見守る関係**をつくります。

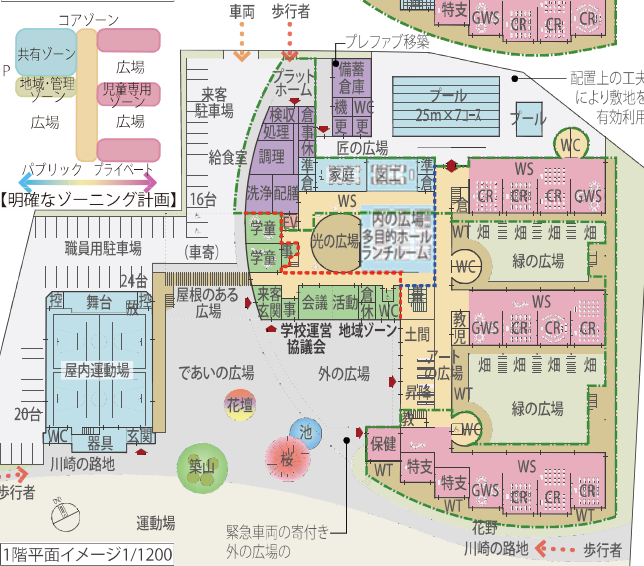
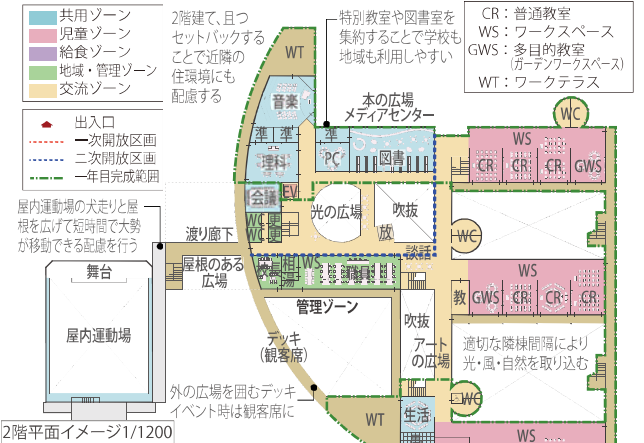
・地域・管理ゾーンを基点として東側が子どもたちの専用ゾーン、北側が共有ゾーン、南側が屋外交流ゾーンといったように**明確なゾーニング**を行います。地域の施設として、子どもたちの学校として機能の両立を図ります。

・来訪者管理、物品搬入管理は、門扉や建物による段階的なセキュリティラインを設けます。**校舎内に入るには地域・管理ゾーンを通る動線計画**により子どもたちの**安心・安全を確保**します。

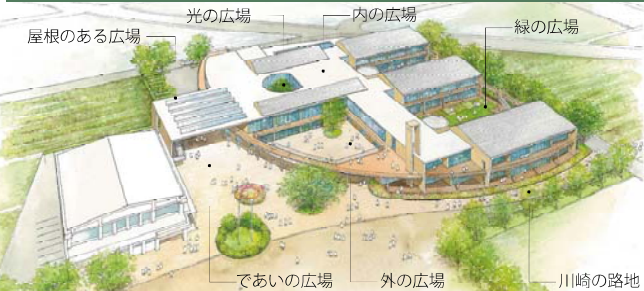


【敷地の有効活用とセキュリティ】

■子どもたちの学びを支え、心を育む2階建てプラン (全ての課題に共通)



■路地と広場に溢れる子どもたちの歓声 (全ての課題に共通)



■南西から望む鳥瞰イメージ

川崎の路地沿いに広場、地域ゾーン、教室、学童、玄関等を並べ「つながり」をつくる

■子どもたち、大人たち、それぞれの視点に立った計画 (誰もが利用しやすい学校)

◆**児童への配慮**

・本の広場 (メディアセンター)、アートの広場 (作品展示スペース)、緑の広場 (作物栽培・花壇づくり) 等、**学習意欲を高める「学びのスペース」**を散りばめます。

・3教室 (CR) + 1多目的教室 (GWS) を1ユニットとした**学年クラスター型**とすることで、**学年のまとまり**や落ち着いた環境をつくります。**各学年に多目的教室を持つことから少人数学習、IT等、きめこまやかな授業展開**に期待できます。

・教室 (CR) が拡張できるワークスペース (WS)、屋外へつながるワークテラス (WT)、教室前につくられた緑の広場等は、一斉授業だけではなく**発展型の教育**や自らの学び、自然体験、豊かな遊びへと広がりを見せます。

・屋外は緑化、**内装は木質化**して、やさしく、暖かみのある自然に囲まれた学習環境をつくります。

・本の広場はオープンにできる設えや**16mに及ぶ階段ベンチ**を設けて**本への親しみ**をつくります。

・児童の共有スペースを中心に**2%のゆとり**を設けて、展示、談話、畳コーナー、デン等を入れて**探究心を育み**ます。

・疎外されない場所に**心のゾーン** (保健室 + 特別支援室) を形成し**インクルーシブ教育**の推進と特別支援室の充実を図ります。

◆**地域への配慮**

・地域ゾーンを中心に外の広場、内の広場、特別教室、屋内運動場等を隣接させ、**活動の拡張性やイベントがしやすい**配慮を行います。トイレも内外から使える様にします。

・学校運営協議会と**地域活動スペース**は、隣接、補充、可変性を持たすことで、**様々な集団単位**に対応できる配慮を行います。

◆**保護者への配慮**

・地域ゾーンを通り校内にアクセスし来訪者受付を行います。地域ゾーンに面して来客用駐車場、来客玄関を設けることで**学校に訪れやすく利便性も高まり**ます。

・**学童保育も地域ゾーン**の一角に配置することで車の寄付きや送迎もスムーズに対応できます。

◆**職員への配慮**

・管理ゾーンは校内中央 2階に配置します。南側に大きく開口を取ることで**校内の様子が把握**できます。また、職員室内にワークスペース・印刷コーナー、打合せスペースを設置して教育活動をサポートします。

・職員室廻りに会議室や**複数の打合せスペース**を配置することで、学年単位の会議から全体会議まで様々な会合が同時に行えます。職員の更衣・休憩室やトイレは落ち着いた場所に集約し**ONとOFFが切り替えられる**配慮を行います。



写真は全て弊社実績



本の広場イメージ



学年クラスターイメージ



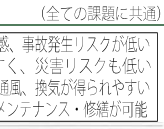
内装の木質化イメージ



屋外学習の様子



学校運営協議会の様子



花壇づくりを継承

■2階建て校舎がもたらす効果 (全ての課題に共通)

教育学習面：屋外を使った授業展開、学びに拡張性
管理運営面：目が行き届き状況が把握しやすい
心理性面：自然との触れ合いやゆとりを感じる
生活遊び面：接地性が高く外部との繋がりが多い

安全安心面：低層の安心感、事故発生リスクが低い
災害避難面：避難しやすい、災害リスクも低い
室内環境面：自然採光、通風、換気が得られやすい
維持管理面：1階からのメンテナンス・修繕が可能



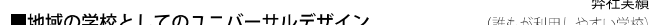
□外の広場からつながる昇降口、アートの広場のイメージ

将来の川崎を担う子どもたちのために多様な学びの場を提供する 配置・平面計画

(児童がいきいき、のびのびと学び生活する学校)

・3 普通教室（CR）+1 多目的教室（GWS）+ワークスペース（WS）を1ユニットとしたクラスター形式を提案します。

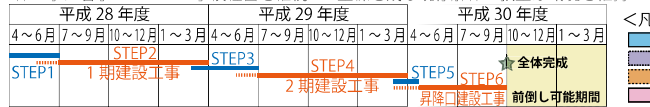
-
- 移動家具により
子どもの居場所
や教師コーナー
をつくる
- 教室の近くに
教材室を整備
- フルオープン建と
濡れてもいい木材
- 水廻りを教室内に設置
- 外移動スペース
- 移動スペース
- 40人軽運動
- 12グループ
- 全開放になる
木製建具を採用
理想の奥行は
8m+5m=13m
- 40人による
活動スペース
2つ分の奥行



(誰もが利用しやすい学校)

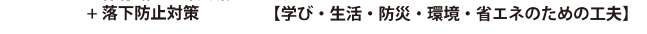
■児童の安全と負担軽減を可能とする建て替え計画 (空間構成及び移行計画)

(空間構成及び移行計画)



(防災機能が強化された学校 他)

学 学びへの活用
災 太陽光パネル 30kW
(国産メーカー製品・高品質設置)
災 各種屋外広場



備蓄倉庫前へ_____炊き出しのサポート

- 学校づくりで「人」「活動」「まち」を

(設計プロセス)

- | | 基本設計 | | | 実施設計 | | |
|--|--------------|---------|-------|--------------|--------|--|
| | H26年度 3月 31日 | 10月 31日 | 4月 3日 | H27年度 3月 31日 | 7月 10日 | |



(ライフサイクルコストを考慮した学校)

◆建設費削減のための技術



(ライフサイクルコストを考慮した学校)

なぐ (設計プロセス)

